

公益財団法人書壇院
平成30年度事業報告書

I	公益事業1 書道に関する普及啓蒙活動事業	
1	収蔵品の調査研究と貸出・公開	2頁
2	講演会・ギャラリートーク	3頁
3	展覧会	3頁
II	公益事業2 書道に関する支援・能力開発事業	
1	書道に関する技能能力の審査・認定	4頁
2	書道教育研究誌の頒布	5頁
3	次代を担う指導者の育成	7頁
III	収益事業	
1	事務所床賃貸事業	9頁
2	書壇院ギャラリー・書壇院ホール賃貸事業	9頁
IV	その他	
1	懇親会等	9頁

I 公益事業 1 書道に関する普及啓蒙活動事業

1 収蔵品の調査研究と貸出・公開

1-1 企画維持管理

(1) 書壇院で受け入れた新規購入品及び寄贈品の整理・配架

(2) 苞竹記念文庫の書庫・収蔵品の整理・管理

① 閲覧図書管理（本の破れ等の修理は保留。）

② 軸の修理をした。

③ 新収蔵品の収蔵番号のデータ入力は、現在も継続中である。

④ 硯の点検・修理は継続中である。

(3) 書壇院ギャラリー展示の実施

① 第107回展（企画展示）歿後45年 高古の書 近藤秋篁

② 第108回展（企画展示）近代日本の書画

—飯山素木顧問寄贈による—

③ 第109回展（平常展示）「吉田苞竹展」

1-2 調査研究

(1) 明治以前の日本の書の拓本の調査を継続した。

① 釈文の採録を継続中である。

② 粗読みを継続中である。

(2) 鐘銘拓本の整理研究は保留状態。

1-3 展示事業

(1) 企画展示は以下のとおり実施した。

① 第107回展

歿後45年 高古の書 近藤秋篁

会期 平成30年4月17日（火）～6月3日（日）

吉田苞竹門高足三家の一人、近藤秋篁歿後45年にあたり、代表作『詩経』を含む36点（幅・額作品23点、折帖8点、蔵拓本3点、蔵本2点）を展示。

② 第108回展

近代日本の書画 —飯山素木顧問寄贈による—

会期 平成30年11月13日（火）～平成31年1月27日（日）

飯山素木顧問寄贈の近代書画作品33点（漢字24点、仮名2点、画7点）を展示。

書家・画家の他、儒学者・歌人・僧侶・仏教学者・彫刻家を含む多

彩な作品。

(2) 平常展示を実施した。

① 第109回展 「吉田苞竹展」

会期 平成31年2月27日(水)～3月31日(日)

2 講演会・ギャラリートーク

2-1 講演会

第24回文化講演会を実施した。

演 題 「表装とは」

講 師 湯山 富士雄 先生

(湯山春峰堂代表取締役)

日 時 平成30年6月3日(日)

会 場 国立近代美術館講堂

参加者 139名

会 費 1,000円

2-2 ギャラリートーク

企画展示開催に付随して以下のとおり実施した。

平成30年5月15日(火)

平成30年11月20日(火)

平成31年1月18日(金)

報道招待日を設けた。

平成30年4月17日(火)

3 展覧会

(1) 第11回 「書壇院 日本文の書」展

会 期 I 平成30年6月13日(水)～6月24日(日)

II 平成30年6月27日(水)～7月8日(日)

III 平成30年7月11日(水)～7月22日(日)

会 場 書壇院ギャラリー

出品者 書壇院展審査会員

I…37名 II…37名 III…38名 計112名

(2) 第11回 「書壇院展院友 日本文の書」展

会 期 I 平成30年8月29日(水)～9月9日(日)

II 平成30年9月12日(水)～9月24日(月・振休)

III 平成30年9月27日(木)～10月8日(月・祝日)

会 場 書壇院ギャラリー

出品者 書壇院展院友

I…31名 II…32名 III…32名 計95名

(3) 第85回記念書壇院展

会期 平成30年12月5日(水)～12月11日(火)

会場 東京都美術館(東京・上野公園)

出品者

全国公募による出品者 589名

審査会員 210名

院友 185名

計 984名

(4) 第85回記念書壇院学生展

会期 平成30年12月5日(水)～12月11日(火)

会場 東京都美術館(東京・上野公園)

出品者

全国公募による小学生 583名

全国公募による中学生 133名

全国公募による高校生 51名

計 767名

(5) 第58回書壇院竹心展

会期 平成31年3月26日(火)～3月31日(日)

会場 セントラルミュージアム銀座(紙パルプ会館5F)

出品者

書壇院審査会員 160名

書壇院展院友(特別選抜者) 8名

計 168名

II 公益事業2 書道に関する支援・能力開発事業

1 書道に関する技能能力の審査・認定

各昇位試験及び書道・南画教授認定試験を実施した。

(1) 『書壇』漢字・かな・南画昇位試験

締切 平成30年6月7日(木) 受験者15人 各位合格者14人

(2) 『書壇』玄位・妙位・雪位試験

締切 平成30年8月7日(火) 受験者100人 各位合格者70人

(3) 書道・南画教授認定試験

締切 平成30年9月7日(金) 無受験者4人 受験者4人 認定者8人

(4) 『書壇』日本文部昇位試験

締切 平成30年10月6日(土) 受験者50人 合格者21人

(5) 『書壇』上位・極位・雅位試験

締切 平成31年3月7日(木) 受験者181人 合格者70人

2 書道教育研究誌の頒布

2-1 書道教育研究誌である月刊『書壇』及び月刊『学生書壇』の刊行について

(1) 書壇院は、公益財団法人としての理念を体し次の諸事項を行った。

- 『書壇』・『学生書壇』の誌代を次のようにした。

『書壇』 1部 700円(送料・消費税込)

『学生書壇』 1部 400円(送料・消費税込)

- 『書壇』購読者は、漢字・かな・南画・日本文・篆刻のすべての部門の出品を無料とした。

- 『学生書壇』購読者は、漢字・かな・硬筆すべての部門の出品を無料とした。

- 『書壇』協力員、『学生書壇』協力員の設定

過去1年間(4月号～3月号)に購読又は取扱った冊数がある一定以上に達した指導者(あるいは取扱い責任者)を協力員として姓号(氏名)を誌上に発表し、協力を讃えた。

(2) 『書壇』について

- ① 月例掲載記事は平成29年度に準じて行った。

- ② 表紙は書壇院蔵の「古硯」とし、裏表紙は、書壇院蔵の作品に解説を添えて載せた。

- ③ 「同人参考手本」

条幅・半紙共、読者の競書出品の参考となるようにした。

また、2尺×6尺・3尺×4尺の参考手本は、書壇院展・毎日書道展への取り組みを身近なものとし、制作意欲を刺激し、出品数の増加を図る目的で掲載した。(漢字・かな・日本文)

- ④ 「漢字規定」

上位・準上位の課題は引き続き唐詩を、玄位～六位及び新規は五言句の参考手本を掲載した。小字の課題は引き続き古典と近藤秋篁書の臨書を取り入れた。

- ⑤ 「かな規定」
極位・準極位は和歌又は俳句を、妙位～6位及び新規は参考手本を掲載した。
- ⑥ 「南画規定」
南画初学講座として参考手本と解説を載せた。
- ⑦ 「漢字臨書規定」
古典研究として読者の作品制作の糧となるような古典を選び、参考手本（条幅・半紙）と解説を載せた。
- ⑧ 「かな臨書規定」
極位～2位は古典の臨書とし、3位～6位はその中の一部分を参考手本として載せた。
- ⑨ 「日本文の書」
参考手本（半紙規定・条幅規定）を掲載し、規定と随意を募集した。
- ⑩ 「篆刻入門」
参考手本を掲載し、規定と随意を募集した。
- ⑪ 随時掲載記事
「私の好きな古典」、「展覧会案内」、「展覧会報告」、「書壇院日記」その他。
- ⑫ 「審査会員遊苑」
審査会員を対象に毎月課題を設定し、作品制作をすることで書の技倆の向上に資するようにした。（漢字・かな・日本文）
- ⑬ 表具店、文房四宝店等の広告をなるべく多く掲載し、購読者への情報提供の拡大を図った。
- ⑭ 毎月の出品票の下にその月の清書締切日時を明記し、遅着のないよう注意を喚起した。
- (3) 『学生書壇』について
- ① 月例掲載記事は平成29年度に準じて行った。
- ② 表紙は泗水昇鼎図より取りあげた。
- ③ 表紙裏に吉田苞竹の書作品を載せた。
- ④ 「鑑賞作品」は古典の一部を大きく掲載し、やさしい解説を添えた。
- ⑤ 掲載手本
「毛筆部」 幼児、小1、小2、小3、小4、小5、小6、中1、
中2、中3、高校（11種）
「かな部」 かな中学、かな高校（2種）

「硬筆部」 幼児、小1、小2、小3、小4、小5、小6、
中学・高校 (8種)

⑥「特待生紹介」は従来どおり掲載した。

⑦ 毎月の出品票の下にその月の清書締切日時を明記し、遅着のないように注意を喚起した。

2-2 『書壇』『学生書壇』年間発行部数について

両誌に今後も改善を加え、魅力ある教育研究誌となるよう一層努力した。
平成30年度の売上げは以下のとおりである。

『書壇』年間売上部数 30,592部 対計画比 2,408部減

『学生書壇』年間売上部数 31,347部 対計画比 653部減

3 次代を担う指導者の育成

3-1 書道教室の継続実施

書道教室(漢字・かな・水墨画(南画))を月2回(原則として
第2週・第4週)書壇院ホールにおいて継続実施した。

書道教室(漢字) 水曜日・金曜日

書道教室(かな) 火曜日・土曜日

書道教室(水墨画(南画)) 土曜日

書道教室(子ども) 木曜日・金曜日・日曜日

3-2 書道講習会の開催

書道講習会を年4回(日本文2回、篆刻・水墨画(南画)各1回)実施した。

(1) 日本文

実施日 第1回 平成30年6月30日(土)

第2回 平成30年7月1日(日)

講師 家田 朱蓬 先生(書壇院展日本文部審査会員)

会場 書壇院ホール

参加費 2,000円

参加者 第1回…15名 第2回…12名

(2) 水墨画(南画)

実施日 平成30年10月6日(土)

講師 岩崎 桂花 先生(書壇院展南画部審査会員)

会場 書壇院ホール

参加費 2,000円

参加者 18名

(3) 篆刻

実施日 平成30年11月3日（土・祝日）
講師 鈴木 青雨 先生（書壇院展漢字部審査会員）
会場 書壇院ホール
参加費 3,000円（印材を含む）
参加者 9名

3-3 書初め会の継続実施

実施日 平成31年1月5日（土）
会場 書壇院ホール、書壇院前広場
内容 ○ 大作揮毫パフォーマンス（3名）
○ 参加者による書初め体験
○ パフォーマンス作品は仙石山森タワー1階展示スペース
に展示
参加者 約80名

3-4 「若竹」活動の一層の活発化

① 若竹交流会

第1回 実施日 平成30年8月11日（土・祝日）
内容 ○ 若竹作品発表会のギャラリー見学
○ 書壇院収蔵の拓本での臨書研究
参加者 15名

第2回 実施日 平成30年12月9日（日）
会場 第85回記念書壇院展会場（東京都美術館）
内容 書壇院展に出品した自分の作品の紹介と、指導者や参加者
による作品批評。
参加者 約20名

② 第4回若竹作品発表会

実施日 平成30年8月7日（火）～8月26日（日）
会場 書壇院ギャラリー
内容 半紙サイズ以内の作品。
出品数 210点
発表会終了後は、作品をインターネット展として書壇院ホームページの若竹広場に掲載した。

3-5 他団体の育成事業への指導協力・支援

① 鶴岡市朝暘第二小学校（吉田苞竹の母校）の書初め会への支援を行った。

事業報告の附属明細書

- 1 重要な事項はすべて事業報告に記載した。